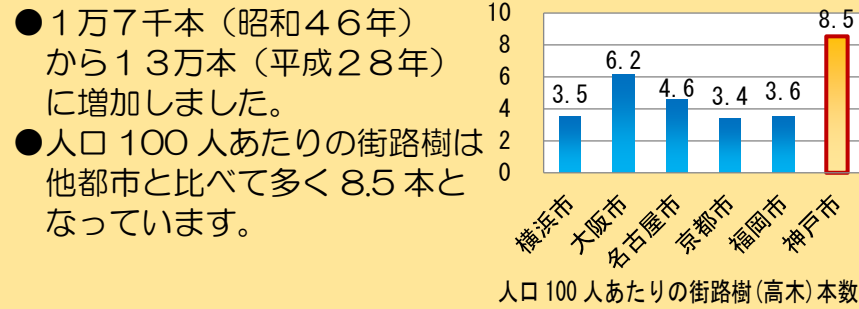


神戸市街路樹再整備方針（概要版）

神戸市では昭和46年から市街地の3割緑化等を目標としたグリーンコウベ作戦を展開し、街路樹が飛躍的に増加しましたが、植栽後40年以上が経過した樹木が増えている現在、さまざまな課題も生まれています。これらの課題をふまえ、街路樹がより健全に生育できる環境や安全で居心地の良い歩行空間を整備し、デザイン都市神戸にふさわしい街路景観形成を目指し、街路樹再整備方針を策定します。

神戸市における街路緑化の現状と課題

街路樹本数の飛躍的な増加



道路交通の安全への支障



維持管理費の減少

- 高齢化、人口減少社会が進む中で、街路樹管理予算は平成26年をピークに減少傾向となっています。

市民の声

- 平成28年6月に街路樹に関するネットモニターアンケートを行いました。結果として、街路樹はまちに「彩り」「風格」「季節」などを感じさせてくれるものと多くの方が認識していましたが、一方で2~3割の方が道路交通の安全上の支障を感じていました。

道路緑化技術基準（国土交通省）の改正

- 平成27年、道路交通の安全の確保により重点を置くなど、「道路空間や地域の価値向上」に資するよう改正されました。

これらの状況をふまえ、次のとおり街路樹再整備方針を策定します。

神戸市街路樹再整備方針

再整備方針1 まちなみと調和のとれた健全な街路樹の育成

① 大木化、老木化した街路樹の計画的な撤去、更新

- 台風等での倒木の可能性が高く、大木化し、樹木診断や毎年剪定している樹種について、計画的な更新を進めます。
- 著しい根上りの発生している樹木について地域の状況に応じた更新を図ります。



倒木等の危険性がある主な樹種
プラタナス、カリナポプラ
ユリノキ、シンジュなど

② 道路空間や周辺環境に応じた街路樹の適正化

- 街路樹が密に植えられた場所や、歩行空間が確保されていない場所などで、風致・景観・歴史性など地域特性に配慮しながら必要に応じた樹種の転換や樹木の間伐、撤去を実施します。

具体的な方策

- 交差点付近の見通しや信号、街灯などの妨げとなっている樹木を撤去します。
- 歩道幅員が狭く、十分な歩行空間が確保されていない路線について、樹木の間伐、撤去、樹種の転換を行います。
- 山間部・田園地帯など周辺に永続的な緑が確保されている路線について、環境保全や景観向上の効果が薄い場合などには、樹木の間伐・撤去を行います。



実施にあたっては、道路特性や管理コストの縮減効果等をふまえて優先順位をつけ、地域と協議・連携しながら進めます。

再整備方針2 風格のあるまちなみ景観の形成

① 適正な剪定管理

- 樹種や道路特性に応じた樹形や目標の大きさを設定し、街路樹の育成状況にあわせて、育成・縮小・樹形再生・維持と分類して剪定を行います。
- 剪定の経過についてはPDCAサイクルで検証し、樹種や道路特性に合った適正な剪定管理を実施していきます。

■育成 目標の大きさに到達しておらず、まだこれから大きく成長させていく段階	■縮小 目標の大きさを超えており、樹形を縮小すべき段階	■樹形再生 目標の大きさを超えている、また樹形が大きく乱れているため、将来の樹形のために「大手術」が必要な段階
---	---------------------------------------	---

■維持 目標の大きさ・樹形に到達しており、現状で大きさ・樹形を維持する段階

剪定によるバランスのとれた樹形づくり



② シンボル路線の設定による質の高い管理

- 都心部や観光地周辺、各区中心部などで良好な景観を形成し、親しみをもたれている路線を「シンボル路線」として位置付け、神戸の顔となるような、メリハリをつけた質の高い管理を実施します。

